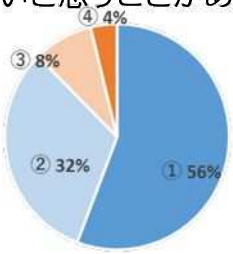
2. 令和5年度　ICTの活用についてのアンケート　集計結果

対象：児童生徒　　実施期間：R5.11.14～R5.12.18

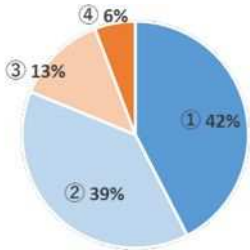
■学ぶ意欲

1）端末を使うことで、勉強がおもしろい、楽しいと思うことがある。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



【小学5年生】

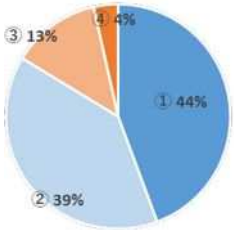


【中学2年生】

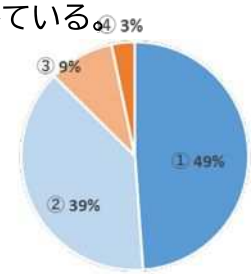
■「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」

2）疑問や課題を解決するために、端末を使って自分なりに調べようとしている。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



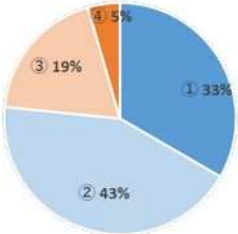
【小学5年生】



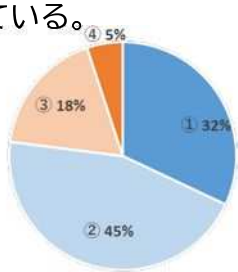
【中学2年生】

3）端末を使った交流で気付いたことを自分の学習に取り入れようとしている。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



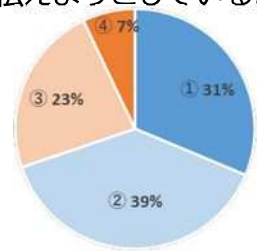
【小学5年生】



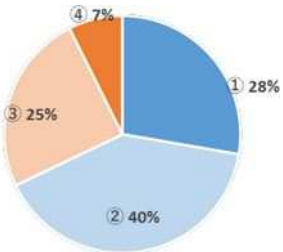
【中学2年生】

4）端末を使う活動で、自分の意見を進んで伝えようとしている。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



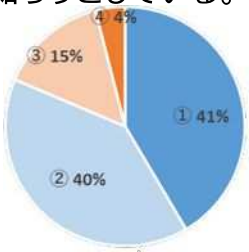
【小学5年生】



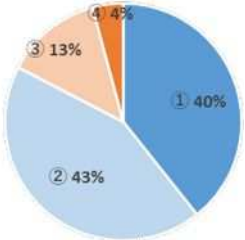
【中学2年生】

5）端末を使う活動で、友達の意見を進んで知ろうとしている。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



【小学5年生】

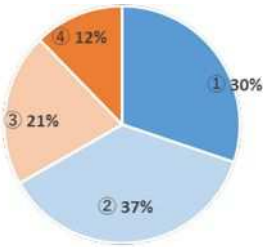


【中学2年生】

6）家庭で端末を活用することで、学習が充実している。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない

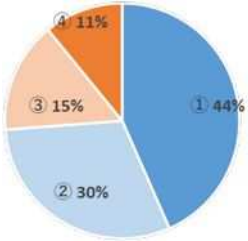
【小学5年生】



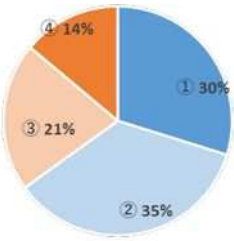
【中学2年生】

7）プログラミングの学習では、繰り返し試しながら改良していくおもしろさを感じる。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



【小学5年生】

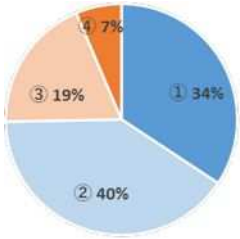


【中学2年生】

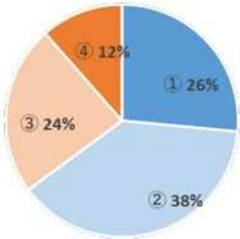
■意味理解を伴った知識の習得と知識を使いこなす力

8）端末のアプリケーションを自分で選んで、学習を進めている。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



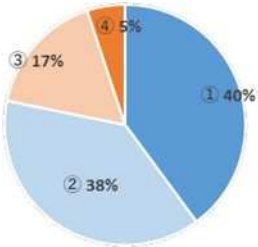
【小学5年生】



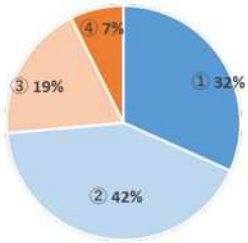
【中学2年生】

9)端末のアプリケーションを使うことで、いろいろな表現をすることができるようになったと感じる。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



【小学5年生】

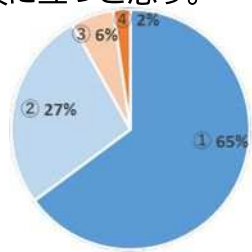


【中学2年生】

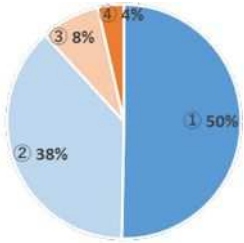
■自分の「伸び」を実感して新たな目標をもつ

10) 学習の中で端末を使うことは、勉強の役に立つと思う。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



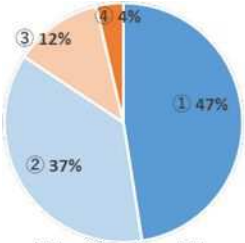
【小学5年生】



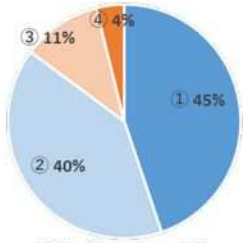
【中学2年生】

11) 端末を活用することで生活をもっと豊かにすることができると思う。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



【小学5年生】

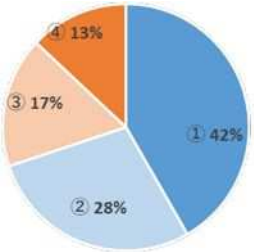


【中学2年生】

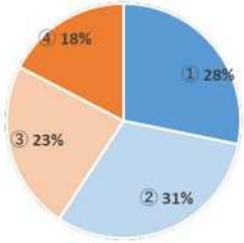
■生活を自らコントロールする力

12) 端末やスマホ等の ICT 機器を使うときは、夜遅くにならないなど、時間帯に気を付けて使っている。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



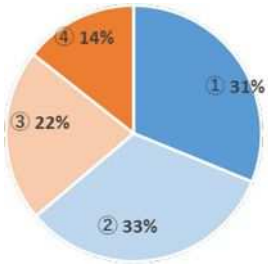
【小学5年生】



【中学2年生】

13）授業以外で端末を使うときは、時間が長くならないよう、使う時間の長さを自分で決めている。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない

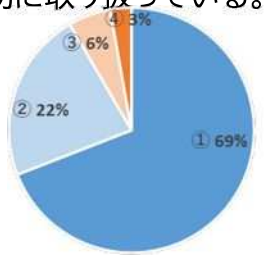


【小学5年生】

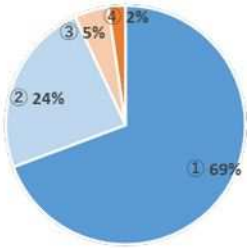
【中学2年生】

14）端末・アカウント(ID)・パスワードを適切に取り扱っている。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



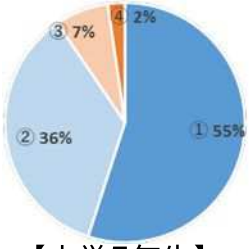
【小学5年生】



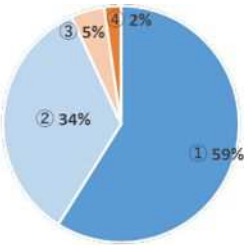
【中学2年生】

15）情報の正しい活用の仕方を考えて端末を使っている。

①■当てはまる
②■どちらかと言えば当てはまる
③■どちらかと言えば当てはまらない
④■当てはまらない



【小学5年生】



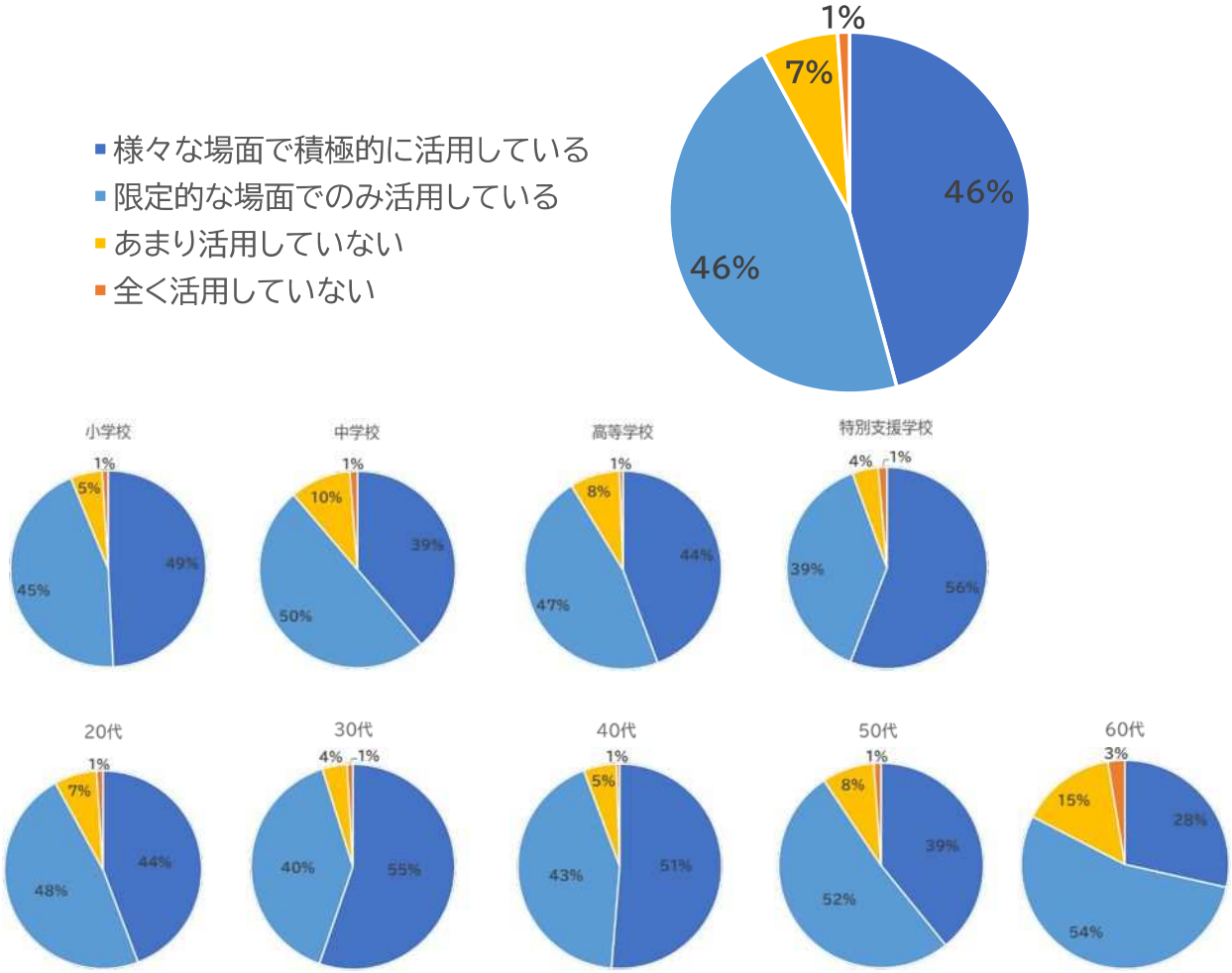
【中学2年生】

【ICT の活用と協働的な学び】
「8:端末のアプリケーションを自分で選んで、学習を進めている」「9:端末のアプリケーションを使うことで、いろいろな表現をすることができるようになったと感じる」の項目において昨年度より肯定的な回答が増加しており、ICT の効果的な活用が着実に進んでいる。
一方で、「4:端末を使う活動で、自分の意見を進んで伝えようとしている」の項目は、肯定的な回答の割合が引き続き低い。子どもが自分の思いや考えを表現し合う機会の創出とともに、他者の考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりする協働的な学びを充実させていく必要がある。
【子どもたちを支える教育環境の充実】
「12:端末やスマホ等の ICT 機器を使うときは、夜遅くにならないなど、時間帯に気を付けて使っている」「13:授業以外で端末を使うときは、時間が長くならないよう、使う時間の長さを自分で決めている」の項目においては、肯定的な回答の割合が低い。子どもが生活を自らコントロールする力に係る項目に引き続き課題が見られる。

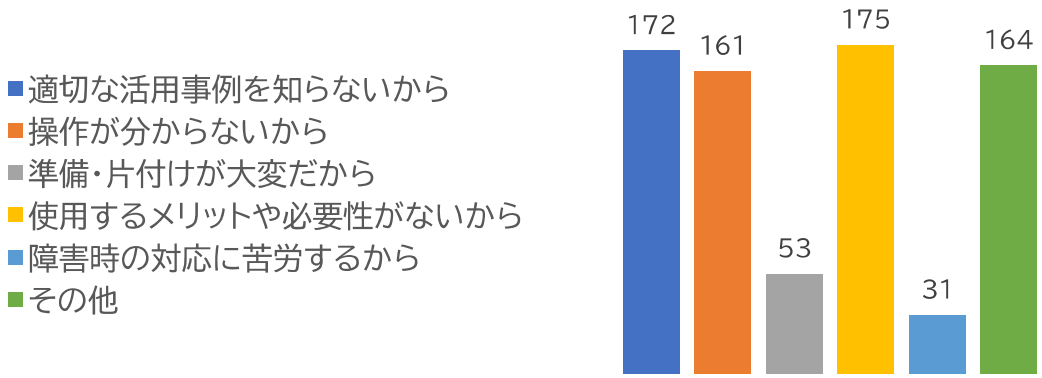
3. ICT 活用に関するアンケート（教職員） 集計結果

対象：教職員（任意）　実施期間：R6.7.18～R6.8.16（6,552人回答）

1―1 現在の１人1台端末や ICT 環境の活用について教えてください。

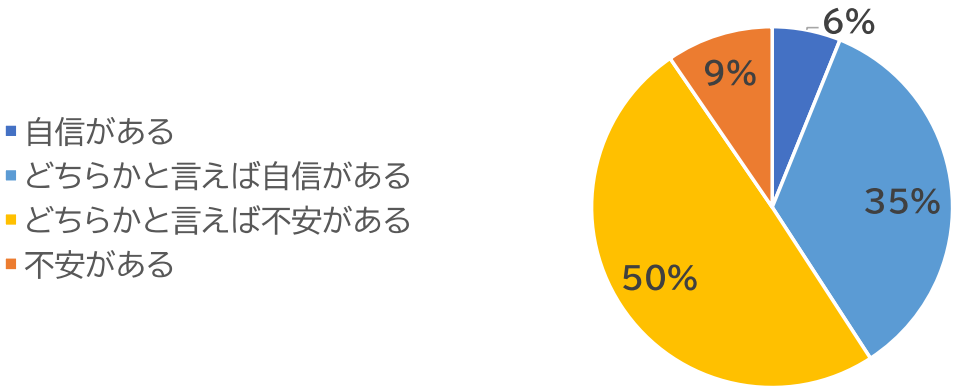


1―2 （「あまり活用していない」「全く活用していない」と回答した方）活用していない理由として、一番近い理由を教えてください。

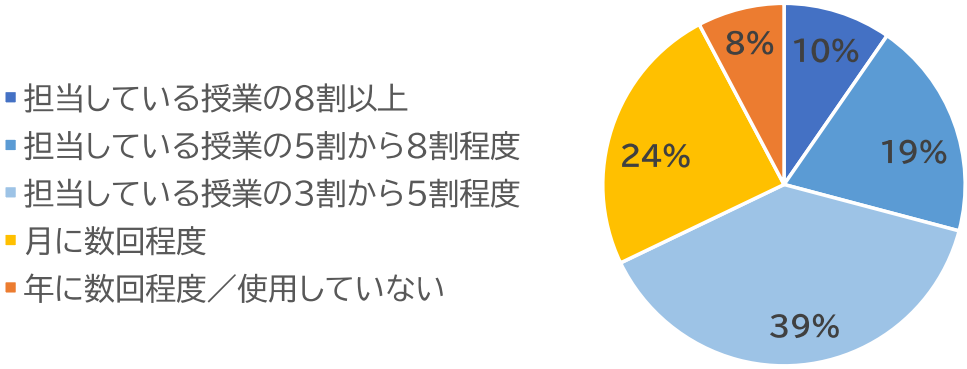


（その他）
・端末の故障が多い。
・端末故障などにより、予備機も足らず児童生徒全員に行き渡っていない。
・ネットワークが不安定。
・端末のスペックが低い。操作性が悪い。
・教科で使えるソフトウェアがない。ソフトウェアが充実していない。
・学習時間の確保のため。
・端末で授業中にゲームをするなど授業とは異なる使い方をする生徒がいて余計な生徒指導が増えるから。
・低学年では使用頻度は低く、活用には至っていない。
・前頭葉の発達等についていわれているマイナス面を考慮しているとは思えないから
・子どもが学ぶ上で、効果的な場面もあるが、頼り過ぎは、かえって子どもの学びにならないから

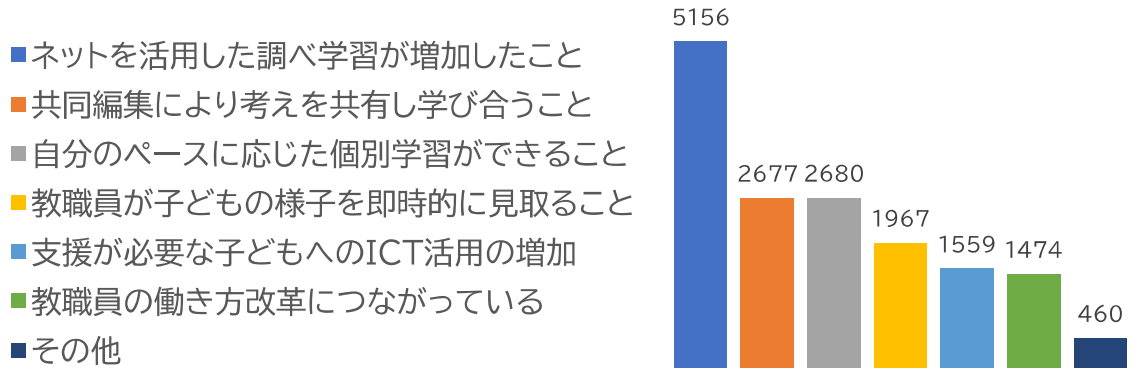
2　ICT を活用した指導に自信・不安はありますか。



3　（授業を担当している教職員のみ）
授業の中で、1人1台端末や ICT をどの程度活用していますか。

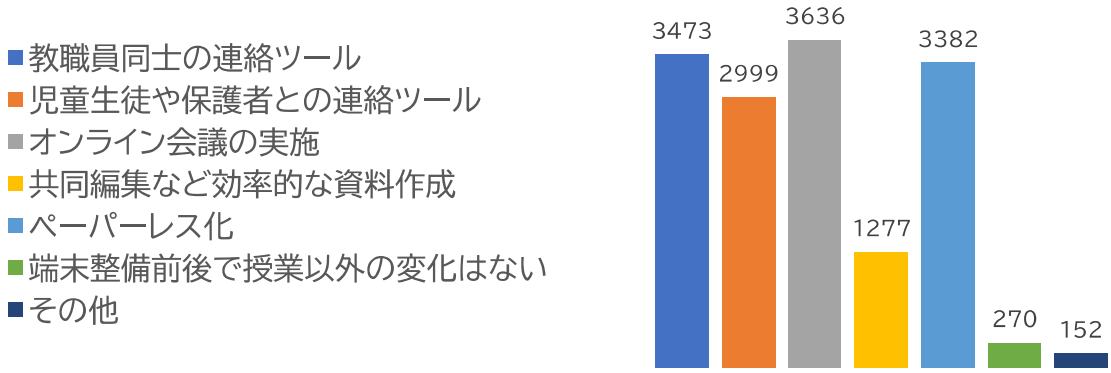


4　GIGA スクールで1人 1 台端末が整備されたことにより、校内でどのような変化が生じましたか。（複数回答可）



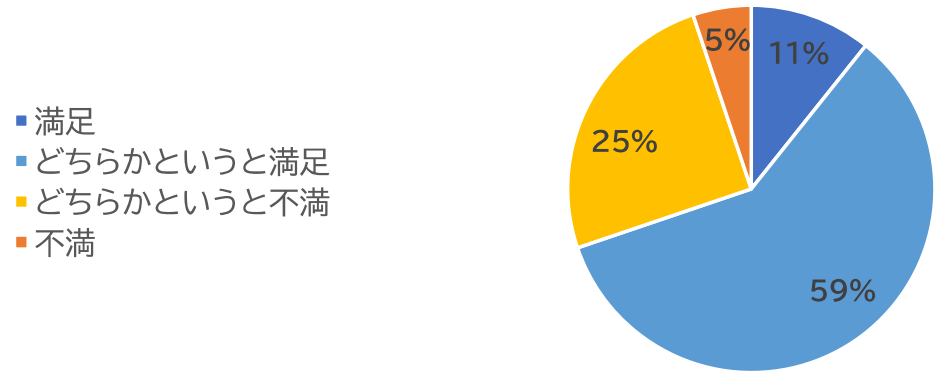
（その他）
・生徒に配付するプリントをデータで配信し、ペーパレス化が進んだ。
・学校に来ることができない児童生徒もオンラインで学習に参加できている。
・生徒会活動で全校アンケートを実施しやすくなった。
・コンピュータ教室に行かなくてもすぐに使える。
・教材研究や研修に膨大な時間がかかっている。
・管理、故障対応など新たな仕事が増えた。
・端末利用にかかわる生徒指導が増えた。

5　授業以外の場面で、1人1台端末をどのように活用していますか。（複数回答可）

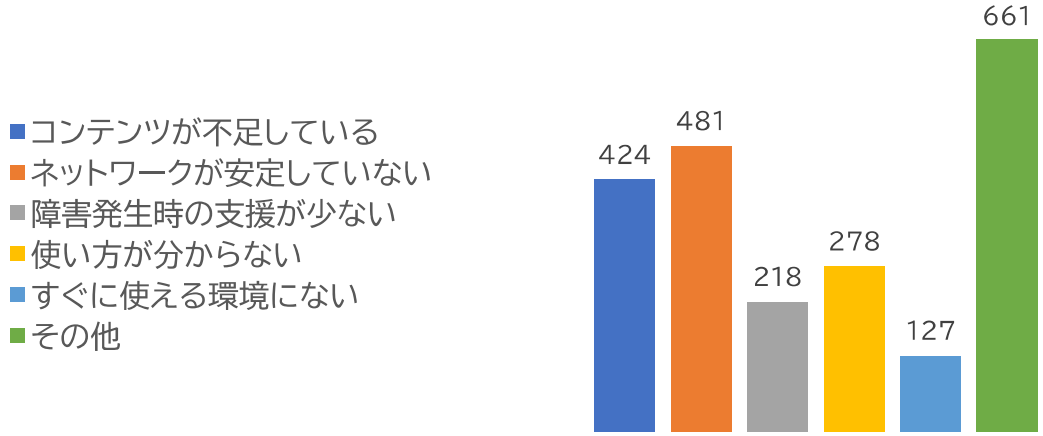


（その他）
・クラスルーム内での教材データの配付。課題の提出。
・クラスルームを用いて、親学校、子学校両方に給食盛り付け見本と指導資料を配信。
・動画の配信により欠席者への対応。
・オンラインによる全校集会。
・児童生徒の委員会活動。部活動の連絡ツール、動画撮影。

6―1　1人1台端末を含めた現状の校内におけるICT環境に関する評価を教えてください。



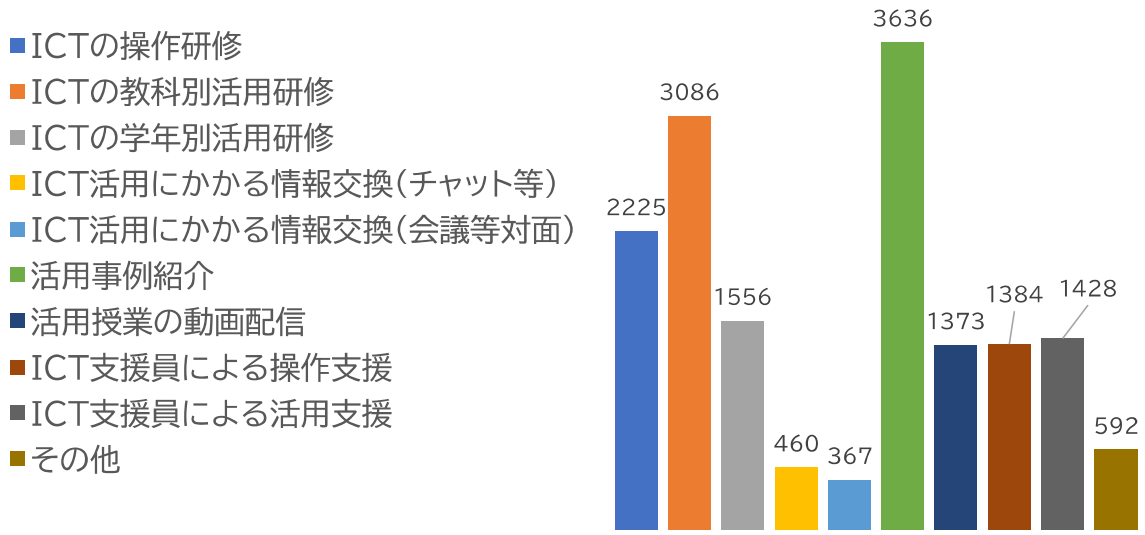
6―2　（「どちらかというと不満」「不満」と回答した方）
満足していない理由として、一番近い理由を教えてください。



（その他）

・セキュリティ面から、制限が多すぎる。
・端末の故障が非常に多い。予備台数が不足している。
・端末のバッテリーの経年劣化。
・教職員に1人1台のクロムブックが割り当てられていない。
・校舎内の Wi-Fi の環境が整っていない。
・校務支援機とクロムブックとの互換。複数のデバイス使用により、データ移行に手間がかかる。
・職員間の意識の差。
・端末使用のルールの徹底が難しく、指導が困難。教職員の負担が大きい。
・年度更新作業など春先の仕事が圧迫している
・ICT 関係のことを専門的に行う職員が必要

7 ICT をより活用するにあたって、どのような支援の充実を希望されますか。（複数回答可）



（その他）

・端末の必要台数の補填、整備。

・校内の ICT 係の教員の負担軽減となる支援

・故障やトラブル、年度初め等の整備する支援員の配置

・ICT 操作サポート専門の担当教員の校内配置

・ICT 支援員による児童、保護者への支援

・アカウント管理・更新、機器の設定等が必要な時期に、これらの業務を行う専門職員を全校に巡回派遣。

4.【さっぽろっ子 ICT 活用のススメ】(保護者向け資料)

5. 札幌市立学校　情報活用能力体系表例

想定される学習内容	大分類		小分類		ステップ1（低学年相当）	ステップ2（中学年相当）
基本的な操作等 プログラミング	A	知識及び技能	1情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解	a.パソコンを持って安全に移動し、正しく起動・終了できる。	a.ファイルアプリを使って、必要なファイルを検索できる。
					b.目的をもって写真や動画を撮影できる。	b.写真や映像の必要な部分を拡大したり切り取ったりできる。
					c.指示されたファイルを開くことができる。	c.キーボードで正しく文字を入力できる。（10分100字程度）
					d.端末内のデータをドライブに移動できる。	d.複数のキーワードを使ってインターネット検索ができる。
					e.ペイントや手書き入力を使って自分の考えを書くことができる。	e.文と画像を組み合わせて手順を図示することができる。
問題解決・探究における情報活用			2問題解決・探究における情報活用の方法の理解	①情報収集・整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解	a.質問やインタビューによる情報の集め方を理解している。	a.調査や資料等による基本的な情報の収集の方法を理解している。
					b.共通点、相違点、順序を通して情報を整理することを理解している。	b.考えと理由、全体と中心などの情報の関係を理解している。
					c.簡単な絵や図、表やグラフを用いた情報の整理に仕方を理解している。	c.比較、分類し、表やグラフを用いて情報を整理し、情報の特徴・傾向・変化を捉える方法を理解している。
					d.相手に応じて伝え方を工夫する必要があることを理解している。	d.自他の情報を組み合わせ、相手や目的を意識したプレゼンテーションの方法を理解している。
					e.情報を活用して振り返り、良さを確かめられることを理解している。	e.目的を意識して情報活用の手順を見通し、改善点を見出す方法を理解している。
情報モラル・情報セキュリティ			3情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解	a.自分や人が作ったものを大切にすることを理解している。（ステップ1・2）	a.自分や人が作ったものを大切にすることを理解している。（ステップ1・2）
					b.他者に教えてはいけない情報があることを理解している。（ステップ1・2）	b.他者に教えてはいけない情報があることを理解している。（ステップ1・2）
					c.人を傷つける内容を発信してはいけないことを理解している。（ステップ1・2）	c.人を傷つける内容を発信してはいけないことを理解している。（ステップ1・2）
					d.自分や他者の情報の大切さを理解している。（ステップ1・2）	d.自分や他者の情報の大切さを理解している。（ステップ1・2）
					e.コンピュータなどを利用する時の基本的なルールを理解している。	e.情報社会における情報活用の必要性を理解している。
問題解決・探究における情報活用 プログラミング 情報モラル・情報セキュリティ	B	思考力、判断力、表現力等	1問題解決・探究における情報を活用する力（プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む）	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集 、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力等	a.身近なところから課題に関する情報を収集し、簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて、情報を整理することができる。	a.調査や資料等から情報を収集し、情報同士のつながりを見付けたり、観点を決めた簡易な表やグラフ等や習得した「考えるための技法」を用いてたりして情報を整理することができる。
					b.体験や活動から疑問を持つことができる。	b.収集した情報から課題を見付けることができる。
					c.情報の大体を捉え、分解・整理し、自分の言葉でまとめることができる。	c.情報を抽象化するなどして全体的な特徴や要点を捉え、新たな考えや意味を見出すことができる。
					d.相手を意識し、わかりやすく表現することができる。	d.表現方法を相手に合わせて選択し、相手や目的に応じ、自他の情報を組み合わせてわかりやすく表現することができる。
					e.問題解決における情報の大切さを意識しながら情報活用を振り返り、良さに気付くことができる。	e.自らの情報の活用を振り返り、手順の組み合わせをどのように改善していけば良いのかを考えることができる。
問題解決・探究における情報活用 プログラミング 情報モラル・情報セキュリティ	C	学びに向かう力、人間性等	1問題解決・探究における情報活用の態度	①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	a.事象に関係する情報を見付けようとする。	a.情報同士のつながりを見付けようとする。
					b.情報を複数の視点から捉えようとする。	b.目的に応じた情報を集めようとする。
					c.問題解決のために情報が大切だと考えようとする。	c.新たな視点を受け入れて検討しようとする。
					d.事象に関係する情報をもとに行動しようとする。	d.目的に応じた情報の活用の見通しを立てようとする。
					e.情報の活用を振り返り、良さを見付けようとする。	e.情報の活用を振り返り、改善点を見出そうとする。
			2情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度	a.人の作ったものを大切にし、他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする。（ステップ1・2）	a.人の作ったものを大切にし、他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする。（ステップ1・2）
					b.コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする。（ステップ1・2）	b.コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする。（ステップ1・2）
					c.情報の発信ややりとりする場合にも、ルール・マナーがあることを踏まえ、行動しようとする。（ステップ1・2）	c.情報の発信ややりとりする場合にも、ルール・マナーがあることを踏まえ、行動しようとする。（ステップ1・2）
					d.情報や情報技術を適切に使おうとする。（ステップ1・2）	d.情報や情報技術を適切に使おうとする。（ステップ1・2）
					e.情報通信ネットワークを協力して使い、情報や情報技術を生活に活かそうとする。（ステップ1・2）	e.情報通信ネットワークを協力して使い、情報や情報技術を生活に活かそうとする。（ステップ1・2）

※「札幌市立学校 情報活用能力体系表例」に示した内容を身に付ける過程で必要と考えられる操作スキルを市立学校教職員向けに整理した学習指導例

操作スキル					①安全に持ち歩き、正しく起動・終了を行うことができる。	①メールアドレスとパスワードを覚えて、ログインすることができる。
					②パスワードを覚えて、ログインすることができる。	②指定されたインターネットサイトから必要な情報を見付けることができる。
					③ペイントアプリで絵を描いたり、写真や動画を撮ったりできる。	③キーワードを関連した他の言葉に変えて検索し、必要な情報を見付けることができる。
					④ブラウザのタブを切り替えることができる。	④オクリンクプラス等で文や写真・図を組み合わせて自分の考えを書き表すことができる。
					⑤手書き入力を使って文字を入力することができる。	⑤キーボードを使って正しく文字を入力できる。（10分100字程度）
					⑥学級クラスルームの投稿を見たり、コメントをしたりできる。	⑥フィグジャム等を使って、友達と交流することができる。
					⑦ドリルパークの問題を解くことができる。	⑦オクリンクプラス等で自他のカードを整理し、自分の考えの参考にできる。
					⑧ファイルアプリで端末内のデータをドライブに移すことができる。	⑧スプレッドシートの指定された場所に考えを書くなどして、共同編集することができる。
					⑨オクリンクプラス等のカードに自分の考えを書き表せる。	⑨オクリンクプラス等で簡単なプレゼンテーションをすることができる。
					⑩オクリンクプラス等のカードを提出することができる。	⑩提示された型を活用しながらグーグルスライドでプレゼンテーションをすることができる。

ステップ3(高学年相当)	ステップ4(中学校相当)	ステップ5(高等学校相当)	想定される学習内容
a.ファイルのフォルダ管理ができる。	a.必要なファイルやフォルダをリンクやアドレスで他者と共有することができる。	a.ファイルやフォルダの適切な運用(クラウド活用・権限設定等)ができる。	基本的な操作等
b.目的に応じたアプリケーションの選択と操作ができる。	b.目的や相手に応じた適切なアプリケーションの選択と操作ができる。(ステップ4・5)	b.目的や相手に応じた適切なアプリケーションの選択と操作ができる。(ステップ4・5)	
c.メディアの特徴や社会における活用を理解することができる。	c.メディアの種類及び特徴、情報流通の特徴、情報システムやネットワークの基礎的な仕組みを理解することができる。	c.メディアとコミュニケーション手段の特徴、情報流通、デジタル化や処理の自動化について科学的に理解することができる。	
d.キーボードで正確に文字を入力できる。(10分200字程度)	d.キーボードで十分な速さで正確に文字を入力できる。(10分300字程度)	d.効率を考えた情報の入力ができる。(キーボード入力:10分400字程度)	
e.意図した処理を行うための適切なプログラムを作成、評価、改善できる。	e.問題発見・解決のための安全・適切なプログラムの作成、評価、改善ができる。	e.問題発見・解決のためのプログラムの制作、事象のモデル化・シミュレーションができる。	プログラミング
a.調査や実験・観察等による情報の収集と検証の方法を理解している。	a.効果的な情報の検索と調査・検証の方法を理解している。	a.得られた情報の妥当性信頼性の吟味、統計的な調査の方法を理解している。	問題解決・探究における情報活用
b.原因と結果など、情報と情報の関連付けの方法を理解している。	b.意見と根拠、具体と抽象、比較と分類など、情報と情報の関係による整理の方法を理解している。	b.主張と論拠、主張とその前提や反証、個別と一般化、推論の仕方、情報の重要度や抽象度など、情報の関係や階層化による整理の方法を理解している。	
c.目的に応じて表やグラフを用い、複数の視点から情報の傾向と変化を捉える方法を理解している。	c.表やグラフを用いて統計的に情報を整理したり、目的に応じて情報の傾向と変化を捉えたりする方法を理解している。	c.統計指標、回帰、検定などを用いた統計的な情報の整理・分析をしたり、目的に応じて客観的に情報の傾向と変化を捉える方法を理解している。	
d.複数の表現手段を組み合わせ、聞き手とのやりとりを含む効果的なプレゼンテーションの方法を理解している。	d.情報を統合して表現し、デジタルツールを用いて発信・交流を行ったり、安全適切なプログラムによって表現したりする方法を理解している。	d.情報を階層化して表現し、デジタルツールを用いて発信・交流を行ったり、安全適切なプログラムによって表現したりする方法を理解している。	
e.問題解決のための情報活用の手順を計画し、振り返り、効果や改善点を見出す方法を理解している。	e.条件に合った情報技術の活用を計画し、効率化の視点から評価、改善する手順を理解している。	e.モデル化やシミュレーションの結果を踏まえた情報技術の活用を計画し、多様な視点から評価、改善する手順を理解している。	
a.情報社会での情報技術の働きや情報化に伴う産業や国民生活の変化を理解している。	a.情報システムの種類、目的、役割や特性を踏まえ、情報化が与える社会への影響と課題を理解している。	a.情報システムの役割や特性、その影響、情報デザインが人や社会に果たす役割と及ぼす影響を理解している。	情報モラル・情報セキュリティ
b.情報に関する自分や他者の権利について理解している。	b.情報に関する個人の権利とその重要性を理解している。(ステップ4・5)	b.情報に関する個人の権利とその重要性を理解している。(ステップ4・5)	
c.通信ネットワーク上のルールやマナー、情報を守るための方法を理解している。	c.社会のルール・法律を守ることの意義、情報セキュリティ確保のための対策・対応について理解している。	c.情報に関する法規や制度を知り、情報セキュリティ確保のための対策・対応について科学的に理解している。	
d.情報技術の悪用に関する危険性を理解している。	d.仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性を理解している。	d.仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性を科学的に理解している。	
e.発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響や情報メディアの利用による健康への影響を理解している。	e.情報社会における自分の責任や責務、健康面に配慮した情報メディアとの関わり方について理解している。	e..情報社会における自他の責任や責務、健康面に配慮した日常的な情報メディアの利用方法について理解している。	
a.目的に応じた情報メディアを選択し、調査や実験等を組み合わせながら情報収集し、目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用し、情報を整理することができる。	a.調査を設計し、情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報検索・検証し、目的や状況に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」を組み合わせて活用したりして整理することができる。	a.分析の目的等を踏まえて調査を設計し、効果的に情報検索・検証し、目的や状況に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」を自在に活用したりして整理することができる。	問題解決・探究における情報活用 / プログラミング / 情報モラル・情報セキュリティ
b.問題を焦点化し、問題解決のための情報活用の計画を立て、調整しながら実行することができる。	b.問題の解決に向け、条件を踏まえて情報活用の計画を立て最適化し、解決に向けた計画を複数立案し、評価・改善しながら実行することができる。	b.問題の効果的な解決に向け、情報やメディアの特性や情報社会の在り方等の諸条件を踏まえ、解決に向けた情報活用の計画を複数立案し、他者と協働しながら試行錯誤と評価・改善を重ねながら実行することができる。	
c.情報の傾向と変化を捉え、類似点や規則性を見付け、転用や応用を視野に入れた問題の解決策を考察することができる。	c.目的に応じ、情報と情報技術を活用して、情報の傾向と変化を捉え、問題に対する多様な解決策を明らかにすることができる。	c.目的に応じ、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、モデル化やシミュレーション等を行いながら、情報の傾向と変化を捉え、多様な立場を想定し、問題に対する多様な解決策を明らかにすることができる。	
d.目的や意図に応じて複数の表現手段を組み合わせて表現し、聞き手とのやりとりを含めて効果的に表現することができる。	d.目的や意図に応じて情報を統合して表現し、プレゼンテーション、Webページ、SNSなどやプログラミングによって表現・発信、創造することができる。	d.メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、目的や受け手の状況に応じて適切で効果的な組み合わせを選択・統合し、プレゼンテーション、Webページ、SNSなどやプログラミングによって表現・発信、創造することができる。	
e.情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を論理的に考えることができる。	e.情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し、意図する活動を実現するために手順の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかを論理的に考えることができる。	e.情報及び情報技術の活用を多様な視点から評価し、意図する活動を実現するために手順の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかをオンラインコミュニティ等を活用しながら論理的・協働的に考えることができる。	
a.情報を構造的に理解しようとする。	a.事象を情報とその結び付きの視点から捉えようとする。(ステップ4・5)	a.事象を情報とその結び付きの視点から捉えようとする。(ステップ4・5)	問題解決・探究における情報活用 / プログラミング
b.物事を批判的に考察しようとする。	b.物事を批判的に考察し判断しようとする。	b.物事を批判的に考察し新たな価値を見いだそうとする。	
c.複数の視点を想定して計画しようとする。	c.条件を踏まえて情報及び情報技術の活用の計画を立て、試行しようとする。(ステップ4・5)	c.条件を踏まえて情報及び情報技術の活用の計画を立て、試行しようとする。(ステップ4・5)	
d.情報を創造しようとする。	d.情報及び情報技術を創造しようとする。(ステップ4・5)	d.情報及び情報技術を創造しようとする。(ステップ4・5)	
e.情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見出そうとする。	e.情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善しようとする。	e.情報及び情報技術の活用を多様な視点から評価し改善しようとする。	
a.情報に関する自分や他者の権利があることを踏まえ、尊重しようとする。	a.情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする。(ステップ4・5)	a.情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする。(ステップ4・5)	情報モラル・情報セキュリティ
b.通信ネットワーク上のルールやマナー、生活の中で必要な情報セキュリティを踏まえ、行動しようとする。	b.社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることや、情報セキュリティの確保のための対策・対応の必要性を踏まえ、行動しようとする。	b.情報に関する法規や制度、情報セキュリティを確保する意義を踏まえ、適切に行動しようとする。	
c.発信した情報や情報社会での行動や及ぼす影響を踏まえ、行動しようとする。	c.仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性や、情報社会における自分の責任や義務を踏まえ、行動しようとする。	c.仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの意義や、情報社会における自他の責任や義務を踏まえ、行動しようとする。	
d.情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする。	d.情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、適切に行動しようとする。(ステップ4・5)	d.情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、適切に行動しようとする。(ステップ4・5)	
e.情報通信ネットワークは共用のものであるという意識を持ち、情報や情報技術をより良い生活や社会づくりに活かそうとする。	e.情報通信ネットワークの公共性を意識し、情報や情報技術をより良い生活や持続可能な社会の構築に活かそうとする。	e.情報通信ネットワークの公共性を意識し、望ましい情報活用の在り方について考え、情報や情報技術をより良い生活や持続可能な社会の構築に活かそうとする。	

①複数のキーワードを使ってインターネット検索を行い、必要な情報を見付けられる。	①検索の条件を制御したり、画像を使用したりして効率的に必要な情報を見付けられる。	①必要なファイルやフォルダをリンクやアドレスで他者と共有・閲覧制御することができる。
②オクリンクプラスで目的の相手にカードを送り、情報を共有することができる。	②オクリンクプラスで自他の情報を区別しながら、情報を共有することができる。	②効率的に得られた情報の妥当性信頼性の吟味を行うことができる。
③フォルダ管理によって情報を整理することができる。	③必要なファイルやフォルダをリンクやアドレスで他者と共有することができる。	③必要なファイルやフォルダをリンクやアドレスで他者と共有・閲覧制御することができる。
④キーボードを使って正確に文字を入力できる。(10分200字程度)	④キーボードで速く正確に文字入力ができる。(10分300字程度)	④キーボードで速く正確に文字入力ができる。(10分400字程度)
⑤相手や目的を意識し、誤解のないように自分の考えを伝えることができる。	⑤意見や根拠などに基に考え、相手や目的を意識して自分の考えを伝えることができる。	⑤情報同士の関連や抽象度に基づいて階層化して考えを整理したり、分析したりできる。
⑥グーグルドキュメントを使って考えのまとめを作ることができる。	⑥グーグルスライドを使って考えを整理し、分かりやすく伝えることができる。	⑥グーグルの各種ツールを使い分け、資料を作成することができる。
⑦グーグルスプレッドシートを使って簡単なグラフを作ることができる。	⑦グーグルスプレッドシートを使って目的を意識したグラフを作ることができる。	⑦モデル化やシミュレーション等を行い、計画的に問題の解決策を検討できる。
⑧意図した処理を行うためのプログラムを作成、評価、改善することができる。	⑧意図した処理を行うためのプログラムを作成、評価、改善することができる。	⑧個人の権利に留意した情報発信・交流や安全適切なプログラムによる表現ができる。
⑨グーグルドキュメントを使って共同編集することができる。	⑨共同編集やコメントを活用して協働的に考えをまとめることができる。	⑨仮想的な空間の保護・治安維持を意識し、自他の責任や義務を踏まえ、行動しようとする。
⑩グーグルスライドを使ってプレゼンテーションをすることができる。	⑩グーグルサイト等を活用し、著作権や肖像権に配慮した情報発信ができる。	⑩オンラインで協働し、意図する活動を実現するために手順を改善することができる。

※「考えるための技法」は別紙参照　　参考:文部科学省(2020)情報活用能力の体系表例

札幌市立学校 情報活用能力体系表例

大分類		小分類		ステップ1(低学年相当)	想定される学習内容
A	知識及び技能	1.情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解	a.パソコンを持って安全に移動し、正しく起動・終了できる。	基本的な操作等 プログラミング
				b.目的をもって写真や動画を撮影できる。	
				c.指示されたファイルを開くことができる。	
				d.端末内のデータをドライブに移動できる。	
				e.ペイントや手書き入力を使って自分の考えを書くことができる。	
		2.問題解決・探究における情報活用の方法の理解	①情報収集・整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解	a.質問やインタビューによる情報の集め方を理解している。	問題解決・探究における情報活用
				b.共通点、相違点、順序を通して情報を整理することを理解している。	
				c.簡単な絵や図、表やグラフを用いた情報の整理に仕方を理解している。	
				d.相手に応じて伝え方を工夫する必要があることを理解している。	
				e.情報を活用して振り返り、良さを確かめられることを理解している。	
		3.情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解	a.自分や人が作ったものを大切にすることを理解している。(ステップ1・2)	情報モラル・情報セキュリティ
				b.他者に教えてはいけない情報があることを理解している。(ステップ1・2)	
				c.人を傷つける内容を発信してはいけないことを理解している。(ステップ1・2)	
				d.自分や他者の情報の大切さを理解している。(ステップ1・2)	
				e.コンピュータなどを利用する時の基本的なルールを理解している。	
B	思考力、判断力、表現力等	1.問題解決・探究における情報を活用する力(プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集 、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力等	a.身近なところから課題に関する情報を収集し、簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて、情報を整理することができる。	問題解決・探究における情報活用 プログラミング 情報モラル・情報セキュリティ
				b.体験や活動から疑問を持つことができる。	
				c.情報の大体を捉え、分解・整理し、自分の言葉でまとめることができる。	
				d.相手を意識し、わかりやすく表現することができる。	
				e.問題解決における情報の大切さを意識しながら情報活用を振り返り、良さに気付くことができる。	
C	学びに向かう力、人間性等	1.問題解決・探究における情報活用の態度	①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	a.事象に関係する情報を見付けようとする。	問題解決・探究における情報活用 プログラミング
				b.情報を複数の視点から捉えようとする。	
				c.問題解決のために情報が大切だと考えようとする。	
				d.事象に関係する情報をもとに行動しようとする。	
				e.情報の活用を振り返り、良さを見付けようとする。	
		2.情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度	a.人の作ったものを大切にし、他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする。(ステップ1・2)	情報モラル・情報セキュリティ
				b.コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする。(ステップ1・2)	
				c.情報の発信ややりとりする場合にも、ルール・マナーがあることを踏まえ、行動しようとする。(ステップ1・2)	
				d.情報や情報技術を適切に使おうとする。(ステップ1・2)	
				e.情報通信ネットワークを協力して使い、情報や情報技術を生活に活かそうとする。(ステップ1・2)	

※「札幌市立学校 情報活用能力体系表例」に示した内容を身に付ける過程で必要と考えられる操作スキルを市立学校教職員向けに整理した学習指導例

操作スキル			①安全に持ち歩き、正しく起動・終了を行うことができる。
			②パスワードを覚えて、ログインすることができる。
			③ペイントアプリで絵を描いたり、写真や動画を撮ったりできる。
			④ブラウザのタブを切り替えることができる。
			⑤手書き入力を使って文字を入力することができる。
			⑥学級クラスルームの投稿を見たり、コメントをしたりできる。
			⑦ドリルパークの問題を解くことができる。
			⑧ファイルアプリで端末内のデータをドライブに移すことができる。
			⑨オクリンクプラス等のカードに自分の考えを書き表せる。

(情報活用能力)参考:文部科学省(2020)情報活用能力の体系表例

札幌市立学校 情報活用能力体系表例

大分類		小分類		ステップ2(中学年相当)	想定される学習内容
A	知識及び技能	1.情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解	a.ファイルアプリを使って、必要なファイルを検索できる。	基本的な操作等 プログラミング
				b.写真や映像の必要な部分を拡大したり切り取ったりできる。	
				c.キーボードで正しく文字を入力できる。(10分100字程度)	
				d.複数のキーワードを使ってインターネット検索ができる。	
				e.文と画像を組み合わせて手順を図示することができる。	
		2.問題解決・探究における情報活用の方法の理解	①情報収集・整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解	a.調査や資料等による基本的な情報の収集の方法を理解している。	問題解決・探究における情報活用
				b.考えと理由、全体と中心などの情報の関係を理解している。	
				c.比較、分類し、表やグラフを用いて情報を整理し、情報の特徴・傾向・変化を捉える方法を理解している。	
				d.自他の情報を組み合わせ、相手や目的を意識したプレゼンテーションの方法を理解している。	
				e.目的を意識して情報活用の手順を見通し、改善点を見出す方法を理解している。	
		3.情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解	a.自分や人が作ったものを大切にすることを理解している。(ステップ1・2)	情報モラル・情報セキュリティ
				b.他者に教えてはいけない情報があることを理解している。(ステップ1・2)	
				c.人を傷つける内容を発信してはいけないことを理解している。(ステップ1・2)	
				d.自分や他者の情報の大切さを理解している。(ステップ1・2)	
				e.情報社会における情報活用の必要性を理解している。	
B	思考力、判断力、表現力等	1.問題解決・探究における情報を活用する力(プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集 、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力等	a.調査や資料等から情報を収集し、情報同士のつながりを見付けたり、観点を決めた簡易な表やグラフ等や習得した「考えるための技法」を用いてたりして情報を整理することができる。	問題解決・探究における情報活用 プログラミング 情報モラル・情報セキュリティ
				b.収集した情報から課題を見付けることができる。	
				c.情報を抽象化するなどして全体的な特徴や要点を捉え、新たな考えや意味を見出すことができる。	
				d.表現方法を相手に合わせて選択し、相手や目的に応じ、自他の情報を組み合わせてわかりやすく表現することができる。	
				e.自らの情報の活用を振り返り、手順の組み合わせをどのように改善していけば良いのかを考えることができる。	
C	学びに向かう力、人間性等	1.問題解決・探究における情報活用の態度	①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	a.情報同士のつながりを見付けようとする。	問題解決・探究における情報活用 プログラミング
				b.目的に応じた情報を集めようとする。	
				c.新たな視点を受け入れて検討しようとする。	
				d.目的に応じた情報の活用の見通しを立てようとする。	
				e.情報の活用を振り返り、改善点を見出そうとする。	
		2.情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度	a.人の作ったものを大切にし、他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする。(ステップ1・2)	情報モラル・情報セキュリティ
				b.コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする。(ステップ1・2)	
				c.情報の発信ややりとりする場合にも、ルール・マナーがあることを踏まえ、行動しようとする。(ステップ1・2)	
				d.情報や情報技術を適切に使おうとする。(ステップ1・2)	
				e.情報通信ネットワークを協力して使い、情報や情報技術を生活に活かそうとする。(ステップ1・2)	

※「札幌市立学校 情報活用能力体系表例」に示した内容を身に付ける過程で必要と考えられる操作スキルを市立学校教職員向けに整理した学習指導例

操作スキル			①メールアドレスとパスワードを覚えて、ログインすることができる。
			②指定されたインターネットサイトから必要な情報を見付けることができる。
			③キーワードを関連した他の言葉に変えて検索し、必要な情報を見付けることができる。
			④オクリンクプラス等で文や写真・図を組み合わせて自分の考えを書き表すことができる。
			⑤キーボードを使って正しく文字を入力できる。(10分100字程度)
			⑥フィグジャム等を使って、友達と交流することができる。
			⑦オクリンクプラス等で自他のカードを整理し、自分の考えの参考にできる。
			⑧スプレッドシートの指定された場所に考えを書くなどして、共同編集することができる。
			⑨オクリンクプラス等で簡単なプレゼンテーションをすることができる。

(情報活用能力)参考:文部科学省(2020)情報活用能力の体系表例

札幌市立学校 情報活用能力体系表例

大分類		小分類		ステップ3(高学年相当)	想定される学習内容
A	知識及び技能	1.情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解	a.ファイルのフォルダ管理ができる。	基本的な操作等 プログラミング
				b.目的に応じたアプリケーションの選択と操作ができる。	
				c.メディアの特徴や社会における活用を理解することができる。	
				d.キーボードで正確に文字を入力できる。(10分200字程度)	
				e.意図した処理を行うための適切なプログラムを作成、評価、改善できる。	
		2.問題解決・探究における情報活用の方法の理解	①情報収集・整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解	a.調査や実験・観察等による情報の収集と検証の方法を理解している。	問題解決・探究における情報活用
				b.原因と結果など、情報と情報の関連付けの方法を理解している。	
				c.目的に応じて表やグラフを用い、複数の視点から情報の傾向と変化を捉える方法を理解している。	
				d.複数の表現手段を組み合わせ、聞き手とのやりとりを含む効果的なプレゼンテーションの方法を理解している。	
				e.問題解決のための情報活用の手順を計画し、振り返り、効果や改善点を見出す方法を理解している。	
		3.情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解	a.情報社会での情報技術の働きや情報化に伴う産業や国民生活の変化を理解している。	情報モラル・情報セキュリティ
				b.情報に関する自分や他者の権利について理解している。	
				c.通信ネットワーク上のルールやマナー、情報を守るための方法を理解している。	
				d.情報技術の悪用に関する危険性を理解している。	
				e.発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響や情報メディアの利用による健康への影響を理解している。	
B	思考力、判断力、表現力等	1.問題解決・探究における情報を活用する力(プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集 、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力等	a.目的に応じた情報メディアを選択し、調査や実験等を組み合わせながら情報収集し、目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択・活用し、情報を整理することができる。	問題解決・探究における情報活用 プログラミング 情報モラル・情報セキュリティ
				b.問題を焦点化し、問題解決のための情報活用の計画を立て、調整しながら実行することができる。	
				c.情報の傾向と変化を捉え、類似点や規則性を見付け、転用や応用を視野に入れた問題の解決策を考察することができる。	
				d.目的や意図に応じて複数の表現手段を組み合わせて表現し、聞き手とのやりとりを含めて効果的に表現することができる。	
				e.情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を論理的に考えることができる。	
C	学びに向かう力、人間性等	1.問題解決・探究における情報活用の態度	①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	a.情報を構造的に理解しようとする。	問題解決・探究における情報活用 プログラミング
				b.物事を批判的に考察しようとする。	
				c.複数の視点を想定して計画しようとする。	
				d.情報を創造しようとする。	
				e.情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見出そうとする。	
		2.情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度	a.情報に関する自分や他者の権利があることを踏まえ、尊重しようとする。	情報モラル・情報セキュリティ
				b.通信ネットワーク上のルールやマナー、生活の中で必要な情報セキュリティを踏まえ、行動しようとする。	
				c.発信した情報や情報社会での行動や及ぼす影響を踏まえ、行動しようとする。	
				d.情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする。	
				e.情報通信ネットワークは共用のものであるという意識を持ち、情報や情報技術をより良い生活や社会づくりに活かそうとする。	

※「札幌市立学校 情報活用能力体系表例」に示した内容を身に付ける過程で必要と考えられる操作スキルを市立学校教職員向けに整理した学習指導例

操作スキル			①複数のキーワードを使ってインターネット検索を行い、必要な情報を見付けられる。
			②オクリンクプラスで目的の相手にカードを送り、情報を共有することができる。
			③フォルダ管理によって情報を整理することができる。
			④キーボードを使って正確に文字を入力できる。(10分200字程度)
			⑤相手や目的を意識し、誤解のないように自分の考えを伝えることができる。
			⑥グーグルドキュメントを使って考えのまとめを作ることができる。
			⑦グーグルスプレッドシートを使って簡単なグラフを作ることができる。
			⑧意図した処理を行うためのプログラムを作成、評価、改善することができる。
			⑨グーグルドキュメントを使って共同編集することができる。

(情報活用能力)参考:文部科学省(2020)情報活用能力の体系表例

札幌市立学校 情報活用能力体系表例

大分類		小分類		ステップ4（中学校相当）	想定される学習内容
A	知識及び技能	1.情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解	a.必要なファイルやフォルダをリンクやアドレスで他者と共有することができる。	基本的な操作等 プログラミング
				b.目的や相手に応じた適切なアプリケーションの選択と操作ができる。（ステップ4・5）	
				c.メディアの種類及び特徴、情報流通の特徴、情報システムやネットワークの基礎的な仕組みを理解することができる。	
				d.キーボードで十分な速さで正確に文字を入力できる。（10分300字程度）	
				e.問題発見・解決のための安全・適切なプログラムの作成、評価、改善ができる。	
		2.問題解決・探究における情報活用の方法の理解	①情報収集・整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解	a.効果的な情報の検索と調査・検証の方法を理解している。	問題解決・探究における情報活用
				b.意見と根拠、具体と抽象、比較と分類など、情報と情報の関係による整理の方法を理解している。	
				c.表やグラフを用いて統計的に情報を整理したり、目的に応じて情報の傾向と変化を捉えたりする方法を理解している。	
				d.情報を統合して表現し、デジタルツールを用いて発信・交流を行ったり、安全適切なプログラムによって表現したりする方法を理解している。	
				e.条件に合った情報技術の活用を計画し、効率化の視点から評価、改善する手順を理解している。	
		3.情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解	a.情報システムの種類、目的、役割や特性を踏まえ、情報化が与える社会への影響と課題を理解している。	情報モラル・情報セキュリティ
				b.情報に関する個人の権利とその重要性を理解している。（ステップ4・5）	
				c.社会のルール・法律を守ることの意義、情報セキュリティ確保のための対策・対応について理解している。	
				d.仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性を理解している。	
				e.情報社会における自分の責任や責務、健康面に配慮した情報メディアとの関わり方について理解している。	
B	思考力、判断力、表現力等	1.問題解決・探究における情報を活用する力（プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む）	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集 、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力等	a.調査を設計し、情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報検索・検証し、目的や状況に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」を組み合わせて活用したりして整理することができる。	問題解決・探究における情報活用 プログラミング 情報モラル・情報セキュリティ
				b.問題の解決に向け、条件を踏まえて情報活用の計画を立て最適化し、解決に向けた計画を複数立案し、評価・改善しながら実行することができる。	
				c.目的に応じ、情報と情報技術を活用して、情報の傾向と変化を捉え、問題に対する多様な解決策を明らかにすることができる。	
				d.目的や意図に応じて情報を統合して表現し、プレゼンテーション、Webページ、SNSなどやプログラミングによって表現・発信、創造することができる。	
				e.情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し、意図する活動を実現するために手順の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかを論理的に考えることができる。	
C	学びに向かう力、人間性等	1.問題解決・探究における情報活用の態度	①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	a.事象を情報とその結び付きの視点から捉えようとする。（ステップ4・5）	問題解決・探究における情報活用 プログラミング
				b.物事を批判的に考察し判断しようとする。	
				c.条件を踏まえて情報及び情報技術の活用の計画を立て、試行しようとする。（ステップ4・5）	
				d.情報及び情報技術を創造しようとする。（ステップ4・5）	
				e.情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善しようとする。	
		2.情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度	a.情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする。（ステップ4・5）	情報モラル・情報セキュリティ
				b.社会は互いにルール・法律を守ることによって成り立っていることや、情報セキュリティの確保のための対策・対応の必要性を踏まえ、行動しようとする。	
				c.仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性や、情報社会における自分の責任や義務を踏まえ、行動しようとする。	
				d.情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、適切に行動しようとする。（ステップ4・5）	
				e.情報通信ネットワークの公共性を意識し、情報や情報技術をより良い生活や持続可能な社会の構築に活かそうとする。	

※「札幌市立学校 情報活用能力体系表例」に示した内容を身に付ける過程で必要と考えられる操作スキルを市立学校教職員向けに整理した学習指導例

操作スキル				①検索の条件を制御したり、画像を使用したりして効率的に必要な情報を見付けられる。
				②オクリンクプラスで自他の情報を区別しながら、情報を共有することができる。
				③必要なファイルやフォルダをリンクやアドレスで他者と共有することができる。
				④キーボードで速く正確に文字入力ができる。（10分300字程度）
				⑤意見や根拠などに基に考え、相手や目的を意識して自分の考えを伝えることができる。
				⑥グーグルスライドを使って考えを整理し、分かりやすく伝えることができる。
				⑦グーグルスプレッドシートを使って目的を意識したグラフを作ることができる。
				⑧意図した処理を行うためのプログラムを作成、評価、改善することができる。
				⑨共同編集やコメントを活用して協働的に考えをまとめることができる。

（情報活用能力）参考：文部科学省（2020）情報活用能力の体系表例

札幌市立学校 情報活用能力体系表例

大分類		小分類		ステップ5(高等学校相当)	想定される学習内容
A	知識及び技能	1.情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	①情報技術に関する技能 ②情報と情報技術の特性の理解 ③記号の組合せ方の理解	a.ファイルやフォルダの適切な運用(クラウド活用・権限設定等)ができる。	基本的な操作等 プログラミング
				b.目的や相手に応じた適切なアプリケーションの選択と操作ができる。(ステップ4・5)	
				c.メディアとコミュニケーション手段の特徴、情報流通、デジタル化や処理の自動化について科学的に理解することができる。	
				d.効率を考えた情報の入力ができる。(キーボード入力:10分400字程度)	
				e.問題発見・解決のためのプログラムの制作、事象のモデル化・シミュレーションができる。	
		2.問題解決・探究における情報活用の方法の理解	①情報収集・整理、分析、表現、発信の理解 ②情報活用の計画や評価・改善のための理論や方法の理解	a.得られた情報の妥当性信頼性の吟味、統計的な調査の方法を理解している。	問題解決・探究における情報活用
				b.主張と論拠、主張とその前提や反証、個別と一般化、推論の仕方、情報の重要度や抽象度など、情報の関係や階層化による整理の方法を理解している。	
				c.統計指標、回帰、検定などを用いた統計的な情報の整理・分析をしたり、目的に応じて客観的に情報の傾向と変化を捉える方法を理解している。	
				d.情報を階層化して表現し、デジタルツールを用いて発信・交流を行ったり、安全適切なプログラムによって表現したりする方法を理解している。	
				e.モデル化やシミュレーションの結果を踏まえた情報技術の活用を計画し、多様な視点から評価、改善する手順を理解している。	
		3.情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	①情報技術の役割・影響の理解 ②情報モラル・情報セキュリティの理解	a.情報システムの役割や特性、その影響、情報デザインが人や社会に果たす役割と及ぼす影響を理解している。	情報モラル・情報セキュリティ
				b.情報に関する個人の権利とその重要性を理解している。(ステップ4・5)	
				c.情報に関する法規や制度を知り、情報セキュリティ確保のための対策・対応について科学的に理解している。	
				d.仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性を科学的に理解している。	
				e.情報社会における自他の責任や責務、健康面に配慮した日常的な情報メディアの利用方法について理解している。	
B	思考力、判断力、表現力等	1.問題解決・探究における情報を活用する力(プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む)	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決し、自分の考えを形成していく力 ①必要な情報を収集 、整理、分析、表現する力 ②新たな意味や価値を創造する力 ③受け手の状況を踏まえて発信する力 ④自らの情報活用を評価・改善する力等	a.分析の目的等を踏まえて調査を設計し、効果的に情報検索・検証し、目的や状況に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」を自在に活用したりして整理することができる。	問題解決・探究における情報活用 プログラミング 情報モラル・情報セキュリティ
				b.問題の効果的な解決に向け、情報やメディアの特性や情報社会の在り方等の諸条件を踏まえ、解決に向けた情報活用の計画を複数立案し、他者と協働しながら試行錯誤と評価・改善を重ねながら実行することができる。	
				c.目的に応じ、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、モデル化やシミュレーション等を行いながら、情報の傾向と変化を捉え、多様な立場を想定し、問題に対する多様な解決策を明らかにすることができる。	
				d.メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、目的や受け手の状況に応じて適切で効果的な組み合わせを選択・統合し、プレゼンテーション、Webページ、SNSなどやプログラミングによって表現・発信、創造することができる。	
				e.情報及び情報技術の活用を多様な視点から評価し、意図する活動を実現するために手順の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかをオンラインコミュニティ等を活用しながら論理的・協働的に考えることができる。	
C	学びに向かう力、人間性等	1.問題解決・探究における情報活用の態度	①多角的に情報を検討しようとする態度 ②試行錯誤し、計画や改善しようとする態度	a.事象を情報とその結び付きの視点から捉えようとする。(ステップ4・5)	問題解決・探究における情報活用 プログラミング
				b.物事を批判的に考察し新たな価値を見いだそうとする。	
				c.条件を踏まえて情報及び情報技術の活用の計画を立て、試行しようとする。(ステップ4・5)	
				d.情報及び情報技術を創造しようとする。(ステップ4・5)	
				e.情報及び情報技術の活用を多様な視点から評価し改善しようとする。	
		2.情報モラル・情報セキュリティなどについての態度	①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度 ②情報社会に参画しようとする態度	a.情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする。(ステップ4・5)	情報モラル・情報セキュリティ
				b.情報に関する法規や制度、情報セキュリティを確保する意義を踏まえ、適切に行動しようとする。	
				c.仮想的な空間の保護・治安維持のための、サイバーセキュリティの意義や、情報社会における自他の責任や義務を踏まえ、行動しようとする。	
				d.情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、適切に行動しようとする。(ステップ4・5)	
				e.情報通信ネットワークの公共性を意識し、望ましい情報活用の在り方について考え、情報や情報技術をより良い生活や持続可能な社会の構築に活かそうとする。	

※「札幌市立学校 情報活用能力体系表例」に示した内容を身に付ける過程で必要と考えられる操作スキルを市立学校教職員向けに整理した学習指導例

操作スキル			①必要なファイルやフォルダをリンクやアドレスで他者と共有・閲覧制御することができる。
			②効率的に得られた情報の妥当性信頼性の吟味を行うことができる。
			③必要なファイルやフォルダをリンクやアドレスで他者と共有・閲覧制御することができる。
			④キーボードで速く正確に文字入力ができる。(10分400字程度)
			⑤情報同士の関連や抽象度に基づいて階層化して考えを整理したり、分析したりできる。
			⑥グーグルの各種ツールを使い分け、資料を作成することができる。
			⑦モデル化やシミュレーション等を行い、計画的に問題の解決策を検討できる。
			⑧個人の権利に留意した情報発信・交流や安全適切なプログラムによる表現ができる。
			⑨仮想的な空間の保護・治安維持を意識し、自他の責任や義務を踏まえ、行動しようとする。

(情報活用能力)参考:文部科学省(2020)情報活用能力の体系表例

別紙

考えるための技法（小　中　高）
○順序付ける
複数の対象について、ある視点や条件に沿って対象を並び替える。
○比較する
複数の対象について、ある視点から共通点や相違点を明らかにする。
○分類する
複数の対象について、ある視点から共通点のあるもの同士をまとめる。
○関連付ける
複数の対象がどのような関係にあるかを見付ける。
ある対象に関係するものを見付けて増やしていく。
○多面的に見る　多角的に見る
対象のもつ複数の性質に着目したり、対象を異なる複数の角度から捉えたりする。
○理由付ける（原因や根拠を見付ける）
対象の理由や原因、根拠を見付けたり予想したりする。
○見通す（結果を予想する）
見通しを立てる。物事の結果を予想する。
○具体化する（個別化する、分解する）
対象に関する上位概念　規則に当てはまる具体例を挙げたり、対象を構成する下位概念や要素に分けたりする。
○抽象化する（一般化する、統合する）
対象に関する上位概念や法則を挙げたり、複数の対象を一つにまとめたりする。
○構造化する
考えを構造的（網構造　層構造など）に整理する。

※詳細は学習指導要領解説（総合的な学習の時間編　総合的な探究の時間編）

議案第２号

令和７年度教育委員会事務点検・評価実施要領（案）について
令和７年（２０２５年）１月 21 日提出

教育長　山根　直樹

令和７年度教育委員会事務点検・評価実施要領について、別紙のとおりとする。

（理　由）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定に基づき、令和７年度の教育委員会事務点検・評価を実施するため、本案を提出する。

（案）

令和７年度教育委員会事務点検・評価実施要領

１　概要

⑴　地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条に基づき、教育委員会が所管する事務事業について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表する。

なお、点検・評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る。

⑵　第２期札幌市教育振興基本計画の進行管理を兼ね、点検・評価結果を次年度以降の施策の推進や改善に反映することで、着実に計画を進行する。

⑶　第２期札幌市教育アクションプラン（前期）の全ての事業・取組について自己評価を行い、取組結果や各基本施策に設定した成果指標の動向等を基に、課題を明らかにして今後の方向性を見定めていく。

２　協議

教育長及び教育委員が、令和６年度の教育委員会事務事業における課題や今後の方向性について協議する。

３　授業視察及び児童生徒等との意見交換

学校教育に係る事業・取組についてより理解を深め、効果や課題を的確に把握することを目的とし、教育長及び教育委員による授業視察及び児童生徒等との意見交換を行う。

４　学識経験者の知見の活用

点検・評価の客観性を確保するため、学校教育に精通する者１名、社会教育に精通する者１名の計２名から、実施事業・取組の自己評価等に対する意見を書面により徴する。

⑴ 学校教育に精通する方

高久　元　氏（北海道教育大学札幌校　教授）

⑵ 社会教育に精通する方

加藤　裕明　氏（札幌大谷大学　教授）

5　報告書の構成

第１章　教育委員会の概要

　１　組織及び主な職務権限

　２　令和６年度の活動状況等

第２章　点検・評価の概要

　１　目的

　２　実施方法等

　３　第２期札幌市教育アクションプラン（前期）の施策体系

第３章　点検・評価の結果

　１　重点項目の取組結果

　２　その他事業の取組結果

　３　成果指標の動向

資料編（全事業・取組の点検・評価）

6　報告書の決定・議会提出・公表

⑴　報告書の決定

点検・評価結果等をまとめた報告書を作成し、教育委員会会議に諮る。

⑵　議会提出・公表

第３回定例市議会に提出する。また、教育委員会ホームページに掲載するほか、市政刊行物コーナー等に配架し、広く一般にも公表する。

7　スケジュール

～令和７年４月	事務局で調書作成
令和７年５月中旬 ～８月上旬	協議（１～２回程度を予定）
令和７年８月中旬	報告書を議決
令和７年９月中旬	報告書を第３回定例市議会に提出・公表
令和７年夏～秋頃	授業視察及び児童生徒との意見交換

令和6年度報告書

事業・取組評価

施策体系コード	1-1-1	再 掲			
事業・取組名	「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」の推進				
担当課	教育課程担当課	主な対象範囲	就学前・小中・高		
事業・取組内容	各学校がそれぞれの実情に応じたプログラムを作成・実行し、分かる・できる・楽しい授業の推進を図る。また、子どもの望ましい習慣づくりを推進するため、「さっぽろっ子『学び』のススメ」を活用しながら、家庭や地域との連携を一層深める。				
令和５年度の取組結果	「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」に基づき、各学校において「学ぶ力」育成プログラムを作成し、検証・改善に向けた取組を進めた。 共通指標によるアンケートを小中学校の全学年で実施し、個人票を活用して自己評価の結果を、子どもや家庭と振り返り、伸びを実感したり目標設定に活用したりするなどの取組を進めた。 三つの「ススメ」（リーフレット）を作成・配付し、家庭・地域へ発信した。				
評価と今後の方向性	アンケートの結果から、子どもの自己承認や自ら表現しようとする姿勢において引き続き課題が見られた。学校、家庭、地域との連携・協働を図り、子どもが、自分の思いや願い、悩みなどを大人に伝えやすい体制を、より一層整えていく必要がある。 「課題探究的な学習」と「自治的な活動」の二本柱として、学校教育全般を通して、「学ぶ力」をさっぽろっ子に育成すべき資質・能力であると位置付け、協働を通して相互承認の感度を磨いていく。				

施策体系コード	1-1-1	再 掲	1-3-2		
事業・取組名	課題探究的な学習に係るモデル研究の推進				
担当課	学びのプロジェクト担当課	主な対象範囲	小中・高		
事業・取組内容	市立札幌開成中等教育学校における国際バカロレアのプログラム及びICTを活用したモデル研究を推進し、その成果を全ての学校に普及・啓発する。				
令和５年度の取組結果	市立札幌開成中等教育学校においては、国際バカロレア（IB）の授業づくりのブラッシュアップを図るため、新しく着任した教員の研修、他都市のIB校への研修参加や校内研修を充実させた。 また、Ｒ５年度の札幌市教員研修においても、Ｒ４年度に引き続き、市立札幌開成中等教育学校における課題探究的な学習の実践をより効果的に普及するため、専門研修として、中学校、高校の校種別に同校教員を講師とした「課題探究的な学習に関する研修講座」を実施した。				
評価と今後の方向性	市立札幌開成中等教育学校以外の市立学校における課題探究的な学習の実践の普及のための研修を継続するほか、Ｒ４年度から導入された市立高校等の１人１台端末を活用した課題探究的な学習モデルがより推進されるよう、教員のICTスキル向上に向けた研修等を実施する。また、市立札幌開成中等教育学校においても、IBによる教育内容向上のための教員研修を行うほか、これまでの教育効果を引き続き評価・検証し、今後どのような取組を進めていくべきか検討する。				

令和7年度報告書(案)

事業・取組評価

施策体系コード	1-1	重点	1
事業・取組名	「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」の推進		
担当課	教育課程担当課	主な対象範囲	0
事業・取組内容	「分かる・できる・楽しい授業」づくりに向け、各学校において、市全体の共通指標（子どもの自己評価）を含めた各種調査等の結果やこれまでの取組の成果や課題を分析し、「『学ぶ力』育成プログラム」を作成・実行し、検証改善サイクルの確立を図る。家庭や地域と一体となった取組を促進するために情報発信を充実させることを含め、これらの総合的な取組を「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」として位置づけ、実行する。		
取組結果	0		
評価・課題	0		
今後の方向性	0		

施策体系コード	1-1	重点	0
事業・取組名	「札幌市教育研究推進事業」の推進		
担当課	教職員課	主な対象範囲	義務教育
事業・取組内容	札幌市内の小・中学校等の教職員が学校や経験年数の枠を越えて集い、教職員相互の授業公開等を中心とした実践的な共同研究活動を通じ、それぞれの資質の向上に努め、子どもの「学ぶ力」の育成を図る。		
取組結果	0		
評価・課題	0		
今後の方向性	0		

議案第３－１号

議会の議案についての市長への意見の申出について

令和７年（２０２５年）１月 21 日提出

教育長　山　根　直　樹

令和６年度一般会計補正予算案（別添）について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）第２９条の規定に基づき、下記意見書のとおり意見を述べる。

意　見　書

令和６年度一般会計補正予算案に係る教育委員会関連分については、学校施設新改築費等が盛り込まれており、その内容は適当と考えます。

札幌市教育委員会

（理　由）

令和６年度一般会計補正予算案について意見を述べるため、本案を提出する。

令和６年度　一般会計補正予算案　総括表

1　歳入歳出予算

	所　管	事　業　名 （予算現額）	補正予算額	事　業　概　要　等
歳入	生涯学習部	学校建築費 （51億4,559万円）	24億200万円	学校施設改築等の歳出予算の増に相当する国庫交付金の増額
		物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 0	16億6,400万円	学校給食等食材費高騰対策費の歳出予算の増に相当する国庫交付金の増額
	合　計		40億6,600万円	
歳出	生涯学習部	学校施設新改築費 （116億6,800万円）	1億2,800万円 ※全額繰越	国の補正予算を受け、早期の財源確保等を目的に、国費に相当する義務教育学校１校の新築及び小学校２校のグラウンド造成に係る工事費用を前倒しで予算化
		学校施設改修等整備費 （61億9,600万円）	3億6,400万円 ※全額繰越	国の補正予算を受け、早期の財源確保等を目的に、国費に相当する学校の耐震化工事に係る工事費用を前倒しで予算化
		学校施設長寿命化改修費 （38億5,000万円）	11億3,300万円 ※全額繰越	国の補正予算を受け、早期の財源確保等を目的に、国費に相当する学校の長寿命化改修に係る工事費用を前倒しで予算化
		学校施設バリアフリー化整備費 （14億1,100万円）	1億600万円 ※全額繰越	国の補正予算を受け、早期の財源確保等を目的に、国費に相当する学校のバリアフリー化に係る工事費用を前倒しで予算化
		学校施設照明器具ＬＥＤ化改修費 （28億5,200万円）	13億4,900万円 ※全額繰越	国の補正予算を受け、早期の財源確保等を目的に、国費に相当する学校の照明器具のLED化に係る工事費用を前倒しで予算化
		学校施設冷房設備整備費 （17億800万円）	40億4,100万円 ※全額繰越	国の補正予算を受け、早期の財源確保等を目的に、国費に相当する学校の冷房設備整備に係る工事費用を前倒しで予算化
		学校給食等食材費高騰対策費 （9億3,200万円）	16億6,400万円 ※令和７年度事業費繰越	・令和６年度分（２億1,300万円） 学校給食等の食材費高騰に係る費用の増額 ・令和７年度分（14億5,100万円） 国の補正予算を受け、早期の財源確保等を目的に国費に相当する学校給食等の食材費高騰に係る費用を前倒しで予算化
		学校施設新改築事業関連用地取得費 （31億3,100万円）	▲30億1,460万円	伏見小学校の改築に係る用地取得の見通しが立たなくなったことにより減額するもの
	合　計		57億7,040万円	

※　予算現額には、前年度からの繰越明許費を含む。

議案第３－２号

議会の議案についての市長への意見の申出について

令和７年（２０２５年）１月 21 日提出

教育長　山　根　直　樹

令和７年度一般会計当初予算案（別添）について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和３１年法律第１６２号）第２９条の規定に基づき、下記意見書のとおり意見を述べる。

意　見　書

令和７年度一般会計当初予算案に係る教育委員会関連分については、これまでの様々な取組に加え、１人１台端末の更新を行うＧＩＧＡスクール構想推進費、支援が必要な子どもの早期把握等を行うための子どもに関するデータ連携費、「（仮称）こども本の森」の開設準備のためのこども本の森開設準備費など、教育行政の推進を図るうえで必要かつ重要な施策が盛り込まれており、その内容は適当と考えます。

札幌市教育委員会

（理　由）

令和７年度一般会計当初予算案について意見を述べるため、本案を提出する。

別添

令和7年度一般会計当初予算案

1　令和7年度予算総括

所　管	4年度決算額	5年度決算額	6年度当初予算額 (A)	7年度予算(案) (B)	増減額 (C)（=(B)-(A)）	増減率 (C)/(A)
歳出合計	480億1,260万円	633億3,770万円	667億3,632万円	726億1,276万円	+58億7,645万円	+8.8%
総務部（~R6:生涯学習部）	402億663万円	556億1,380万円	564億3,909万円	618億588万円	+53億6,679万円	+9.5%
学校教育部	68億528万円	67億4,272万円	91億3,061万円	93億9,961万円	+2億6,900万円	+2.9%
中央図書館	10億69万円	9億8,117万円	11億6,660万円	14億726万円	+2億4,066万円	+20.6%
職員部（教育職員の職員費等）	755億4,414万円	732億8,113万円	783億1,710万円	789億8,810万円	+6億7,100万円	+0.9%

※一万円未満切捨ての関係で計算が一致しない場合がある。

2　主な増減理由

所管	事　業　名	増　減　額	理　　由
総務部	GIGAスクール構想推進費	+87億5,800万円	1人1台端末の更新に係る費用の増
総務部	学校施設新改築事業関連用地取得費	▲31億3,100万円	伏見小学校改築等に係る用地取得費の皆減

3　主な新規事業、拡充事業

所管	事　業　名	予　算　額	事　業　概　要
総務部	持続可能な学校給食提供の在り方検討事業費	200万円	持続可能な給食提供の在り方に関する検討
総務部	学校施設冷房設備整備費	1億9,900万円	普通教室等への冷房設備整備（96校）、給食室暑さ対策 ※令和6年度予算からの繰越額40億4,100万円と合わせて事業を実施
学校教育部	市立高校再編校開校準備費	700万円	令和9年4月に開校予定の（仮称）藻岩・啓北商業再編新設校の教育内容等の検討
学校教育部	子どもに関するデータ連携費	200万円	支援が必要な子どもの早期把握等を目的とした教育委員会内の子どもに関するデータ連携
中央図書館	（仮称）さっぽろ読書・図書館プラン2027策定費	270万円	「（仮称）さっぽろ読書・図書館プラン2027」の策定に向けた市民アンケート等の実施
中央図書館	こども本の森開設準備費	3,300万円	「（仮称）こども本の森」の開設に向けた選書や図書館システムの導入、広報活動等の実施

＜未定稿＞

令　和　７　年　度

局　別　施　策　の　概　要

（　）内は前年度予算額を示す　　単位：千円

〈教育委員会〉部・事業名	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	増減率
教育委員会	72,612,760	66,736,322	5,876,438	8.8%
総務部	61,805,889	56,439,099	5,366,790	9.5%
教育委員報酬	**15,060**	**(　15,060)**		
教育委員報酬	15,060	委員　５人		
教育委員会管理費	**15,923,026**	**(　3,101,099)**		
教育委員会運営費	72,350			
教育の情報化推進費	6,246,676	既存の学校用ＩＣＴ機器の維持管理、クラウドサービスの活用促進に向けたシステム構成への移行等		
ＧＩＧＡスクール構想推進費	9,604,000	小中学校における１人１台端末を使用した授業等に必要なハードウェア及びソフトウェアの整備、高等学校での端末活用に向けたソフトウェアの整備等		
幼稚園運営管理費	**49,162**	**(　83,141)**		
幼稚園運営管理費	49,162	園数　５園、学級数　15学級 園児数　222人		
幼稚園教材等購入費	**3,008**	**(　4,844)**		
教材用備品購入費	3,008			
小学校運営管理費	**6,222,218**	**(　6,543,534)**		
小学校運営管理費	6,222,218	学校数　197校、学級数　3,472学級 児童数　84,934人		
小学校教材等購入費	**454,144**	**(　475,488)**		
教材用備品購入費	439,174			
理科算数教育設備費	14,970			
中学校運営管理費	**3,273,298**	**(　3,716,794)**		
中学校運営管理費	3,273,298	学校数　99校、学級数　1,537学級 生徒数　43,487人		

（　）内は前年度予算額を示す　　単位：千円

〈教育委員会〉部・事業名	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	増減率
中学校教材等購入費	**331,715**	**(　324,985)**		
教材用備品購入費	308,554			
理科数学教育設備費	23,161			
高等学校運営管理費	**506,233**	**(　546,025)**		
高等学校運営管理費	506,233	学校数　全日制　６校、定時制　１校 中等教育学校　１校 学級数　172学級 生徒数　6,565人		
高等学校教材等購入費	**30,843**	**(　32,423)**		
教材用備品購入費	27,695			
理科数学教育設備費	3,148			
特別支援学校運営管理費	**204,109**	**(　208,016)**		
特別支援学校運営管理費	204,109	学校数　５校、学級数　62学級 生徒数　370人		
特別支援学校教材等購入費	**14,864**	**(　12,147)**		
教材用備品購入費	14,076			
理科教育設備費	788			
学校給食費	**15,256,130**	**(15,058,176)**		
学校給食費	6,928,679	給食実施校　297校 （うち調理等の委託校　282校）		
学校給食費公会計運営費	8,324,451	学校給食費の管理・運営に要する経費等		
食育推進費	1,000			
持続可能な学校給食提供の在り方検討事業費	2,000	持続可能な給食提供の在り方に関する検討		
社会教育事業推進関係費	**10,300**	**(　10,300)**		
社会教育関係団体補助金	10,300			

（　）内は前年度予算額を示す　　単位：千円

〈教育委員会〉部・事業名	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	増減率
家庭教育推進費	**8,400**	**(　8,400)**		
家庭教育推進費	8,400			
野外教育費	**4,400**	**(　4,400)**		
野外教育総合推進費	4,400	不登校の小中学生を対象とするチャレンジ自然体験等の実施		
地域活動推進費	**123,000**	**(　120,000)**		
地域活動推進費	123,000	学校図書館地域開放事業　128校 地域学校協働活動推進事業　95校 知的障がい者のための成人学級　３団体		
生涯学習推進関係費	**33,588**	**(　20,680)**		
生涯学習推進費	33,588			
生涯学習センター運営管理費	**449,991**	**(　422,354)**		
生涯学習センター運営管理費	449,991			
野外教育施設運営管理費	**223,075**	**(　217,998)**		
青少年山の家運営管理費	139,033			
定山渓自然の村運営管理費	84,042			
青少年科学館運営管理費	**385,339**	**(　376,022)**		
青少年科学館運営管理費	385,339			
その他生涯学習施設運営管理費	**99,208**	**(　97,908)**		
月寒公民館運営管理費	45,864			
市民ホール運営管理費	53,344			
その他生涯学習施設整備費	**8,514**	**(　5,609)**		
生涯学習施設整備費	8,514			

（　）内は前年度予算額を示す　　単位：千円

〈教育委員会〉部・事業名	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	増減率
学校新増改築費	**6,866,770**	**(10,115,359)**		
学校施設新改築費	6,171,000	新築工事 　真駒内地区新設義務教育学校 改築工事 　向陵中学校、琴似小学校、新琴似北中学校 解体工事 　定山渓中学校、発寒中学校、明園小学校 グラウンド造成工事 　山の手小学校、元町北小学校、光陽小学校 実施設計 　（仮称）厚別南・青葉地区義務教育学校、 　（仮称）藻岩・啓北商業再編新設校、 　山鼻小学校、手稲中央小学校 基本設計 　（仮称）伏古本町・札苗地区再編小学校、 　西小学校		
学校施設増築費	19,000	実施設計 　札苗北中学校		
学校施設解体費	554,000	校舎等解体 　解体工事 　　幼稚園４園 　実施設計 　　真駒内中学校 プール解体 　工事 　　小学校２校、中学校１校 　実施設計 　　小学校３校		
まちづくり推進基金造成費	122,770	国庫交付金等を受けて建築した校舎等の財産処分に係る基金積立		
学校用地取得造成費	**220,444**	**(　3,390,142)**		
学校用地造成管理費	220,444	測量　４校 　屯田南小流域貯留施設整備工事等		
学校施設改修費	**11,089,050**	**(11,528,195)**		
不足教室整備費	73,050	不足教室整備分 　小学校12校 特別支援教室・通級指導教室整備分 　小学校15校（うち初度調弁のみ　９校） 　中学校10校（うち初度調弁のみ　６校）		

（　）内は前年度予算額を示す　　単位：千円

〈教育委員会〉部・事業名	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	増減率
学校施設改修等整備費	6,081,000	予防保全 幼稚園　１園 小学校　73校 中学校　47校 高等学校　２校 中等教育学校　１校 特別支援学校　２校 非構造部材耐震化工事 小学校　21校 中学校　６校 義務教育学校　１校 高等学校　２校		
学校施設長寿命化改修費	2,495,000	改修工事 小学校５校、中学校２校 実施設計 小学校２校、中学校２校 基本設計 小学校２校		
学校施設バリアフリー化整備費	145,000	バリアフリートイレ・スロープ整備 幼稚園５園、小学校10校、中学校13校 特別支援学校１校		
学校施設照明器具ＬＥＤ化改修費	2,096,000	改修工事 幼稚園　２園 小学校　39校 中学校　23校 高等学校　２校 特別支援学校　１校 実施設計 幼稚園　１園 小学校　32校 中学校　６校 高等学校　３校		
学校施設冷房設備整備費	199,000	普通教室等への冷房設備整備　96校 給食室暑さ対策（空調服の導入）		
学校教育部	9,399,610	9,130,619	268,991	2.9%
就学事務関係費	**127,233**	**(　　114,188)**		
就学事務費	41,233			
義務教育児童生徒遠距離通学助成費	60,000	札幌市立小中学校に通う児童生徒の通学交通費助成の実施		
高等学校等生徒通学交通費助成費	26,000	石狩管内の高等学校等に通う生徒の通学交通費助成の実施		

（　）内は前年度予算額を示す　　単位：千円

〈教育委員会〉部・事業名	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	増減率
教職員人事管理費	**106,495**	**(　103,653)**		
人事・服務・給与関係費	106,495			
その他学務費	**123,762**	**(　144,652)**		
初任者研修関係費	40,174			
高校改革推進費	18,000	進路探究学習の推進、高校と地域をつなぐコーディネーターの配置、大通高校の外部人材活用等		
庶務関係費	39,511			
公立夜間中学関係費	19,077	星友館中学校における少人数指導等にかかる時間講師、ボランティアの配置等		
市立高校再編校開校準備費	7,000	令和９年４月に開校予定の（仮称）藻岩・啓北商業再編新設校の教育内容等の検討		
学校教育指導費	**1,064,757**	**(　1,148,551)**		
教育課程等推進費	44,563			
外国語指導助手関係費	832,000	小中高等学校等に配置する外国語指導助手（ＡＬＴ）173名		
不登校対策費	120,794	市内６か所の教育支援センターにおける学校復帰に向けた児童生徒への支援		
算数学び「ｂｅｙｏｎｄ」プロジェクト推進費	6,000	全市立小学校、義務教育学校の算数における学びのその先を考えた学習モデルの作成等		
義務教育学校関係費	3,400	福移学園等への時間講師の配置、真駒内地区、厚別南・青葉地区における義務教育学校の開校準備等		
子どもの体力・運動能力向上事業費	1,600	子どもの体力・運動能力の向上に向けた、学校における体育・健康に関する指導及び取組への支援		
帰国・外国人児童生徒教育支援推進費	8,600	日本語指導等が必要な帰国・外国人児童生徒への支援		
人間尊重の教育推進費	1,800	「人間尊重の教育」の推進における子どもの自治的な活動及び個別の人権課題への取組に対する支援		

（　）内は前年度予算額を示す　　単位：千円

〈教育委員会〉部・事業名	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	増減率
コミュニティ・スクール推進費	10,000	家庭や地域と一体となって子どもの成長を支えるためのコミュニティ・スクールの導入推進		
不登校児童生徒のための新たな学びの場整備費	22,000	教育支援センターのオンラインコースやサテライトの開設及び新たな学びの場の設置検討等		
ＡＩの活用による英語教育強化費	14,000	生成ＡＩを効果的に活用した英語力強化に関する取組への支援		
特別支援教育費	**513,731**	**(　　466,739)**		
特別支援教育費	8,000	市立高等支援学校２校への就労支援コーディネーターの配置等		
特別支援教育巡回相談員配置費	43,981	通常の学級で学ぶ特別な教育的支援が必要な子どもの実態把握及び支援内容の検討に係る学校への助言のための特別支援教育巡回相談員（10人）の配置		
学びのサポーター活用費	258,000	特別な教育的支援が必要な子どもに学校生活上の支援を行うための学びのサポーター等の配置		
山の手支援学校運営管理費	65,750			
医療的ケア児への支援体制推進費	138,000	医療的ケアが必要な児童生徒が安全安心に学校生活を送るための看護師配置		
その他指導奨励費	**1,193,192**	**(　1,081,095)**		
指導奨励費	87,578			
教育研究団体補助金	65,690	学校教育水準の維持・向上に関する調査・研究等を行う教育研究団体への補助		
スクールカウンセラー活用費	321,000	いじめや不登校等の課題に対応する臨床心理の専門的知識を有するスクールカウンセラーの配置		
スクールソーシャルワーカー活用費	89,000	関係機関と連携して子どもや家庭の支援体制を整備するためのスクールソーシャルワーカーの配置		
部活動改革推進費	149,000	顧問の確保が困難であり、部活動の継続又は新設が難しい中学校等に対する部活動の運営・技術指導を行う外部人材の派遣		

（　）内は前年度予算額を示す　　単位：千円

〈教育委員会〉部・事業名	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	増減率
相談支援パートナー事業費	193,000	不登校の子どもや家庭に対するきめ細やかな支援を行う相談支援パートナー及び担当区の小中学校の不登校支援についての指導・助言等を行う相談支援リーダーの配置		
進路探究学習オリエンテーリング事業費	10,000	専修学校・各種学校と連携した夏休み期間等における中学生対象の職業体験講座の実施		
観察・実験アシスタント事業費	13,000	小学校の理科の学習における観察・実験活動の充実を目的とした外部人材の活用		
いじめ対策・自殺予防費	44,000	教職員への研修、関係機関との連携協力会議の開催、ネットパトロールの実施、心の健康観察及びいじめアンケートに係るアプリの活用等		
課題探究的な学習モデル推進費	85,924	中等教育学校におけるＩＢカリキュラムや情報通信機器を活用した課題探究的な学習モデルの研究		
学校図書館活用促進費	123,000	学校図書館の活用を促進し、児童生徒の読書活動の充実を図ることを目的とした図書館の環境整備等を担うボランティアの派遣及び学校司書の配置		
地域ぐるみの学校安全体制整備推進費	10,000	スクールガードによる学校の巡回指導等		
子どもに関するデータ連携費	2,000	支援が必要な子どもの早期把握等を目的とした教育委員会内の子どもに関するデータ連携		
教育センター運営管理費	**258,991**	**(　258,802)**		
教育センター運営管理費	85,155			
幼児教育センター関係費	28,836			
特別支援教育地域相談推進費	85,000	特別な教育的支援を必要とする子どもに係る相談等の支援を総合的に行う体制の整備		
市立幼稚園預かり保育費	38,000	市立幼稚園５園における預かり保育の実施		
幼児教育相談・支援体制推進費	22,000	幼児教育センター、研究実践園等における地域教育相談及び私立幼稚園等に対する訪問支援の実施		
北方自然教育園運営管理費	**33,418**	**(　32,940)**		
北方自然教育園運営管理費	33,418			